

日出生台演習場における火器見直し計画に関する判断基準等の照会について

大分県 生活環境部 危機管理室 御中

2026年 4月 27日

日頃よりご対応いただきありがとうございます。

4月21日、九州防衛局より、日出生台演習場における104移転訓練の一環として、砲陣地防御訓練で使用する火器の見直し(対装甲車両火器の使用)について、県および関係自治体等に対し説明が行われた旨、県ホームページ掲載資料にて確認いたしました。

同日、同演習場において自衛隊の重大事故が発生しており、火器運用の安全性に対する社会的関心が極めて高まっている状況にあります。

また、当該資料では、今回の見直しについて「同質・同量」に反しないとの説明がなされていることも確認しております。

つきましては、県が当該計画の受け入れ可否を判断するにあたり、以下の点についてご教示いただきたく存じます。

【照会事項】

1. 判断基準について

県が本件について受け入れ可否を判断する際に、
どんな客観的評価指標(騒音、安全性、住民生活影響等)を持って判断するのか
その基準を具体的に明らかにされたい。

2. 他演習場の確認について

県が言及している「他演習場の状況確認」について、
(1)対象演習場

(2)比較項目(騒音、訓練密度、安全性等)

(3)評価方法

を明示されたい。

3. 負担軽減策の評価について

九州防衛局が提示した

「155mm 榴弾砲と対装甲車両火器を同時に使用しない」との条件について、
県はどのような根拠に基づき「負担軽減策」と評価するのか明らかにされたい。

4. 安全性評価について

資料では「自衛隊が確認する」との説明にとどまっているが、

県としての独自の安全性評価の有無
評価項目および検証方法
第三者的検証の必要性に関する認識

を明らかにされたい。

5. 「同質同量」評価について(重要)

九州防衛局は、1996年以前の訓練との関係で
本件を「同質・同量」と説明しているが、

資料上、榴弾砲と対装甲車両火器は別の射場で運用されていた
一方で、今回は「一体として実施する」とされている

この運用形態の違いについて、県はどのように整理し「同質・同量」と評価するのか明
らかにされたい。

6. 騒音評価について

資料では日平均値(Lcden)のみが示されているが、実際の発射音の最大値や衝撃音の影響について評価が示されていない点について、県の認識を明らかにされたい。

7. 判断枠組みとの関係

県がこれまで米軍演習に関して用いてきた「将来にわたる縮小・廃止」という判断枠組みとの関係において、本件をどのように整理するのか。

【結び】

本件は住民生活および安全に直結する重要な問題であり、判断過程の透明性確保が不可欠と考えます。

なお、現時点においては、負担軽減および安全性の観点から十分な説明が尽くされているとは言えず、慎重な判断が必要であると考えています。

つきましては、5月11日頃までにご回答いただけますようお願いいたします。

また、上記ご回答を踏まえ、担当部局より直接ご説明いただく機会の設定についてもご検討いただけますと幸いです。

ローカルネット大分・日出生台
事務局 浦田龍次
Tel 090-7580-8031
harappamojasan@gmail.com